

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産費 項：畜産業費 目：畜産振興費

事業名 飼料価格高騰対策緊急支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 酪農・飼料係 電話番号：058-272-1111(内4140)

E-mail：c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,345,126 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,345,126	0	0		0	0	0	0	1,345,126
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

輸入が9割を占める配合飼料価格が高止まり、配合飼料価格安定基金による飼料代の補填額が減少し、畜産農家負担額が増加しており、畜産農家の経営に深刻な影響を及ぼしている。

また、補填制度のない粗飼料についても価格が高止まりしており、畜産農家の経営をさらに圧迫している。

このような中、再生産可能な畜産経営を維持するため、飼料価格高騰による生産者の負担を軽減する緊急的な支援が求められている。

(2) 事業内容

配合飼料の使用を削減する取組みメニューに取り組む畜産農家に対し、飼料給与量に応じ、奨励金を交付する。

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率：定額

<奨励金単価（価格高騰相当額の1/2）>（3ヶ月分）

配合飼料：15,300円/t

粗飼料：10,400円/t

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	1,345,126	事業対象期間：令和6年度第1四半期 配合飼料：15,300円/t、粗飼料：10,400円/t
合計	1,345,126	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

なし

(2) 国・他県の状況

国：配合飼料価格安定基金の補填反映後の飼料コスト急増を抑制する「新たな特例」を創設

(3) 後年度の財政負担

緊急対策のため単年度とし、後年度の財政負担はない。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業実施主体：畜産生産者団体（岐阜県畜産協会、岐阜県酪農農業協同組合連合会）

妥当性：生産者の要望を迅速にとりまとめ、速やかに事業実施するに当たり、生産者と密接に関係している団体が適しており、事業実施主体として妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	飼料価格高騰対策緊急支援事業費補助金
補助事業者 (団体)	畜産生産者団体 (岐阜県畜産協会、岐阜県酪農農業協同組合連合会)
補助事業の概要	<p>(目的) 再生産可能な畜産経営を維持するため緊急避難的に支援する。</p> <p>(内容) 配合飼料の使用を削減する取組みを行う畜産農家に対し、飼料給与量に応じ、奨励金を交付する。</p>
補助率・補助単価等	<p>定額・定率・その他</p> <p>(内容) <奨励金単価 (価格高騰相当額の 1 / 2) > 配合飼料: 15,300円 / t 粗飼料: 10,400円 / t</p> <p>(理由) 配合飼料価格等は、飼料高騰前の令和2年度と比べ、直近のデータで、生産者の負担が配合飼料は約30,700円、粗飼料は約20,800円増加しているため、その1/2相当を支援する。</p>
補助効果	配合飼料の使用を削減する取組みを支援することで、飼料価格高騰の影響を緩和することができる。
終期の設定	<p>終期 令和6年度</p> <p>(理由) 緊急対策のため</p>

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか 配合飼料価格高騰の影響を緩和し、再生産可能な畜産経営を維持する。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R4年度実績	R5年度目標	R6年度目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位: 千円)	R2年度	R3年度	R4年度
			279,068

(これまでの取組内容と成果)

令和3年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	輸入飼料原料の価格高騰の影響を緩和するため、配合飼料の使用量削減等に取り組む農家に対し、支援を行った。 379事業者 279,068千円
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和5年度	
	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	配合飼料、粗飼料ともに価格が高止まりとなっており、畜産農家の経営を圧迫している現状から、緊急支援の必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	飼料給与量に応じて奨励金を速やかに交付することで、飼料高騰影響の緩和が期待できる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 緊急対策であるため、迅速な事業遂行が求められる。

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 緊急対策であるため、継続する予定はない。
--